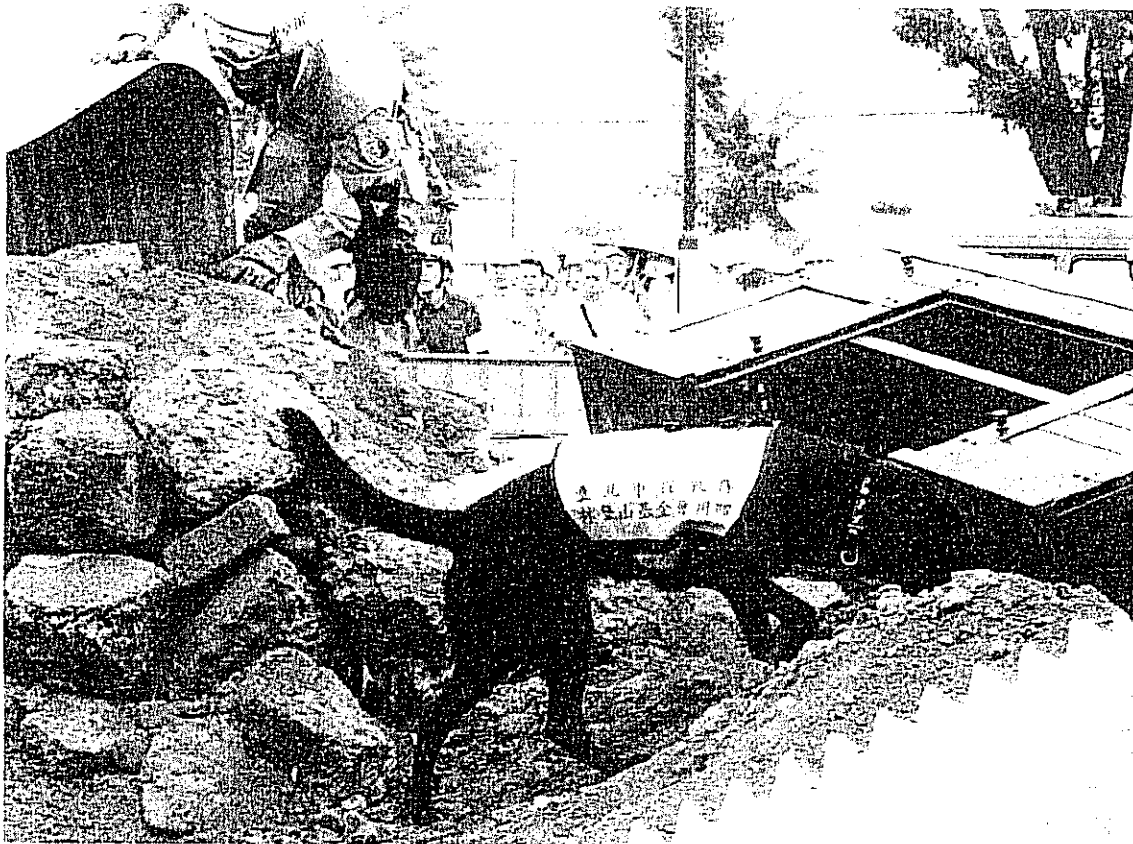


多摩直下地震に備え

都と5市町 合同防災訓練

2万3000人 緊迫の表情

「防災の日」の1日、都と米軍横田基地に隣接する5市町(昭島、福生、武蔵村山、羽村市、瑞穂町)の合同総合防災訓練が、計約2万3000人が参加して行われた。多摩直下地震が午前7時15分ごろ発生し、多摩地区のほぼ全域で震度6弱以上を記録したとの想定で、大勢が発生する被災者の搬送や治療の優先順位を判断する「トリアージ」や、普段通行できない横田基地内を消防車両が通行する訓練などが本番さながらに繰り広げられた。



米軍初参加の昨年は物資の搬送のみだったが、今年は、滑走路脇に広域搬送拠点臨時医療施設(SCU)が設置され、けが人の治療、搬送訓練も行われた。

【横田基地】

倒壊家屋で負傷者を捜す台北市の救助犬(1日午前11時37分、昭島市で)＝川口正隆撮影



地震により化学工場から有毒ガスが発生したとする訓練で出動する防護服を着た自衛隊員ら(1日午前10時4分、昭島市で)



SCUからけが人を搬送する米兵ら

午前9時半すぎから、国立災害医療センター(立川市)などの災害派遣医療チーム(DMAT)が続々と車で到着。SCUで患者の治療を開始した。また、航空自衛隊のC1輸送機や米陸軍のUH60ヘリが北海道などから救援物資を運び込み、トラックに積んで近隣自治体の訓練会場へ搬送した。

陸上自衛隊のヘリで参集した東京消防庁のハイパーレスキュー隊のほかの訓練会場に向かい、重傷患者を乗せた東京消防庁や米空軍のヘリが病院などに搬送した。災害の際、横田基地西側を通る国道16号が不通になると、

JR昭島駅前の複合商業施設「モリタウン」では、エレベーターに閉じこめられた買い物客を助け出す訓練などが行われた。警視庁の機動救助隊がロープを使って3階から1階に飛び降り、エレベーターの客を救出して担架や車いすで運び出した。映画館では従業員が客を安全に避難誘導する訓練を行った。

【昭島会場】

倒壊した建物から被災者を救出する訓練では、台湾から初の参加となる台北市消防局員が救助犬による救助活動を行った。石原知事は訓練後、「あの確率で地震が来るに違いないという覚悟を持って対処する必要がある。訓練を繰り返すことは必ず将来の役に立つ」と講評した。

った場合を想定し、福生市地元の児童約50人が前日午後3時からテントを設営し、非常食などを使って自炊して一晩を過ごした。市立中神小5年の瀬戸島瑞樹さん(10)は、「色々なことを覚えてよかった」と話していた。